



Report 2

### 冬の夜空にイルミネーションの輝き ウインターイルミネーション高野点灯式



▲高野支所前を優しく照らすイルミネーション

毎年高野町の冬を彩る「ウインターイルミネーション高野点灯式」が11月25日、庄原市観光協会高野支部主催により高野支所前で行われ、親子連れを中心に約60人の市民が集りました。

支所周辺や学園ロードのいちょう並木に設置された今年のイルミネーションは、すべての電球がLED化されたほか、新たな色加わったことで一層華やかな雰囲気になりました。カウントダウンの後一斉に点灯した瞬間、「わーきれい」と感嘆の声が上がりました。

点灯式当日はあいにくの雨模様でしたが、高野支所職員によるハンドベル演奏や自治労庄原市職員労働組合の協力を得て無料で振る舞われたの温かいしし汁に、集まった人は「心も体も温まりました」と喜んでいました。

Report 3

### 子育て応援プロジェクト進行中 若者によるまちづくりセミナー&交流会

子育て世代が抱える課題を、参加者全員で話し合い解決していくことを目指しながら、交流による地域活性化を目的とした「若者によるまちづくりセミナー&交流会」が11月18日、口和自治振興センターで行われました。

セミナーでは、三次市の和風バー「天輪」店長の垣内博昭さんが、地域への思いや仕事と地域活動を両立するコツなどを、自身の経験を交えて講演。また、子育て支援センターの山岡弥香さんが子育てに関するアドバイスを送り、参加者は真剣に耳を傾けていました。

意見交換会では、参加した20代～40代の15人が3グループに分かれ、口和でやってみようことや口和にあればうれしいものなどを思い思いに出し合いました。参加した40代の男性は「少ない若者で、このまちをもっ

と活気づけなければいけない」と力を込めていました。



▲山岡さんのアドバイスを聞く参加者

Report 4

### 音楽の力で会場が一つに 東城町音楽交流会



▲妖怪ウォッチの曲で踊りだす客席の参加者

毎年恒例となっている東城町音楽交流会が11月14日、庄原市東城文化ホールで開催され、東城町内の保育所・小学校の園児・児童、中学校と高校の吹奏楽部の生徒、合わせて約260人が参加しました。

ステージは各保育所の年長組の合唱から始まり、東城小、粟田小、八幡小の群読、創作ダンス、合唱と続きました。

小奴可小、東城中、東城高校の各バンドも息の合った音色を会場に響かせました。

東城中バンドの演奏曲「妖怪ウォッチコレクション」が始まると、客席で聞いていた参加者が思わず口ずさみ、中には曲に合わせて巷で人気の妖怪体操を踊る場面も見られました。続くフィナーレの全体合唱「もみじ」で会場全体が温かいハーモニーに包まれました。

市内のイベントやまちの話題をお届けします。  
身近でホットな情報をお寄せください。  
情報政策課広報広聴係  
☎0824-73-1159 / Fax0824-72-3322

Report 1

### 来シーズンこそ優勝を！ 来庄の緒方孝市新監督を激励

広島東洋カープ緒方孝市新監督が12月2日、松田元オーナーと共に市役所本庁舎を訪れ、木山耕三市長をはじめ、庄原市カープ応援隊、庄原こどもミュージカルのメンバーなど、多くの市民から熱烈的な歓迎を受けました。

歓迎セレモニーでは、木山市長、竹内光義議長から激励のあいさつを受け、各団体から花束と庄原市のブランド牛「比婆牛」、ブランド豚「どんぐりコロコロ豚」などが贈呈されました。

緒方新監督は「秋季キャンプ終了後、県内各地の自治体を訪問したが、庄原市が最も熱気ある歓迎だった。今年は悔しい結果だったが、来年は良い結果を残せるようがんばりたい。引き続き応援をよろしくお願いします！」と力強くあいさつし、大きな拍手を浴びていました。



▲左上：激励する木山市長。左下：比婆牛を手渡す庄原市観光協会の土井幹雄会長。右：来シーズンへの抱負を語る緒方新監督



▲市民ホールで緒方新監督と記念撮影





## Report 8 地元食材でワンデイカフェ みちばたカフェ パッソ

地元の料理研究家グループ「サムディシェフ」が11月23日、西城町三坂にある休業中の食堂を活用し、「みちばたカフェ パッソ」を開きました。



▲スペシャルランチに舌鼓

同食堂は峠の茶屋「やまびこ」として30年間、地域住民や周辺施設の利用者に愛されてきましたが、高齢化などの理由により昨年1月にやむなく営業を休止。その復活を望む声が高まる中、昨年6月に待望のカフェがオープンし、今回で3回目になります。

今回はビーフシチューがメインの「道後山高原秋のスペシャルランチ」が40食限定で用意されました。西城産の米や野菜を使った料理のほか、デザートには地元のりんごをふんだんに使った「タルトタタン」なども振る舞われました。

予約でランチは完売。来訪客は彩り豊かな秋の味覚を堪能し、至福の表情を浮かべていました。

メンバーは「楽しみながらもてなしができた」と喜んでいました。

## Report 9 本物の演奏に触れる 東小学校で音楽ワークショップ

NPO法人庄原市芸術文化センターが11月6日、児童にクラシックの素晴らしさに接してもらい、演奏の基礎を学ぶためのワークショップを開催しました。

今回は、大阪室内楽コンクールで優勝したルーマニア出身の弦楽四重奏団「アルカディア・クアルテット」を招いて行う「グランプリコンサート」に併せ実施し、4人のメンバーが公演前日に東小学校を訪問しました。

メンバーは全校児童142人の見つめる中で、ベートーベンやハイドンの弦楽四重奏曲、ルーマニアの民俗舞曲などを披露。児童たちは優雅にそして繊細に響く至極の音色に聴き入っていました。

演奏後にはバイオリンなどの楽器を紹介したり、児童の質問などに答えたりしながら、音楽の魅力を伝えていました。



▲生演奏に聴き入る生徒たち

## Report 10 日頃の活動を存分に披露 みんなの文化発表会



▲自作の書を書いて楽しめるコーナー

比和自治振興区と市文化協会比和支部が共催する『第3回みんなの文化発表会』が11月30日、比和自治振興センターで開催され、20団体、約150人が参加しました。

ステージ発表では、各団体が大正琴や太極拳、民謡のほか、バンド演奏や踊りといったさまざまなものを発表し、日頃の練習の成果を存分に披露。会場の一面では生け花や書道、絵手紙教室の作品が展示され、参加した方がその場で楽しめるブースも設けられていました。

うどんやぜんざい、大判焼きなどこの時期にぴったりの温かい食べ物や手作り雑貨も販売されるなど、来場者も参加者も楽しみながら交流を深めていました。

## Report 5 ニュースポーツを楽しもう エスキーツennis講習会

庄原市スポーツ推進委員協議会総領支部が主催する「エスキーツennisの講習会」が11月23日、里山総領体育館で開催され、12人が参加しました。



▲白熱のラリー

エスキーツennisとは、4m×8mのコートで羽の付いたゴルフボール大のスポンジボールを、木製のラケットでネット越しに打ち合う、広島発祥のスポーツ

です。はじめに、さくらスポーツクラブのメンバーが基本的なルールを説明。参加者はラケットの持ち方などを教わり、早速2チームに分かれてダブルスでゲームを楽しみました。

皆さん最初はラケットにボールを当てるのがやっとの状態でしたが、最後には白熱したゲームを行うまでに上達しました。

庄原市スポーツ推進委員協議会会長竹本健三さんは「エスキーツennisは、あまり場所も取らず、簡単に取り組めるニュースポーツです。幅広い年齢の人たちに、この広島発祥のスポーツを親しんでもらいたい」と話していました。

## Report 6 白熱のラリーで心も弾む 庄原さくらオープンラージボール卓球大会

紅葉の彩り鮮やかな11月18日・19日の2日間、庄原市総合体育館で『第2回庄原さくらオープンラージボール卓球大会』が開催されました。

ラージボール卓球とは、通常より4ミ、大きい44ミのボールと専用ラケットを使う競技で、50歳以上の中高齢者を対象にしたニュースポーツです。

西日本を中心に男女141人が参加し、ダブルス、シングルの各部門で、それぞれ年代別に分かれ、熱戦が展開されました。

参加者からは「去年に続き、楽しみに参加させていただきました。多くの参加者の方と交流はもちろんで

すが、備北丘陵公園のイルミネーションなど市内観光も楽しみの一つです」と笑顔で話していました。



▲大会の様子

## Report 7 いにしえの歴史絵巻を再現し、地域をつなぐ 10自治振興区がのろしりレー

今年で7回目となる「のろし再現プロジェクト」が11月23日に開催され、市内の山々などから高々とのろしが上がり、各地で歓声が上がりました。

それぞれの会場では創意工夫してのろし上げを行ったほか、地域の食や太鼓など



▲北自治振興区でのろし上げ

の芸能や登山を楽しむなど、地域の人がつながるにぎやかなイベントとなりました。

このプロジェクトは、山城のあった本郷町の甲山城跡(山内自治振興区)と前要害山福山城跡(高自治振興区)の2カ所から始まり、現在では10の自治振興区が参加しています。

3年前からは、「のろしをあげよ」との伝令をもって「庄原陸友会」が各所へ走り、飛脚を再現しています。



▲飛脚に伝文を手渡す藤谷委員長(右)

のろしプロジェクト実行委員長の藤谷善久さんは「これからも歴史とロマンがあふれたこのプロジェクトを22の全自治振興区に広め、人と地域、そして庄原をのろしでつなげたい」と話していました。